

平成29年度

# 第1回 認知症地域支援体制推進 全国合同セミナー

～本人と家族が地域でよりよく生きていくことができる体制を築くために～

2017年6月22日

認知症介護研究・研修東京センター  
(進行:研究部長 永田 久美子)



ようこそ！ 全国合同セミナーへ

挨拶 認知症介護研究・研修東京センター

山口 晴保センター長



吉祥寺・井之頭公園

認知症になっても  
住み慣れた地域で、よりよく生きていけるように。  
北海道から沖縄まで、すべての市区町村で。



# 平成29年度第1回合同セミナー参加者概要

平成29年6月20日時点

区分	参加自治体数	参加人数
都道府県	8	9人
市区町村 (地域包括支援センター、事業者等含む)	110 * 30都道府県から	194人
合計	-	203人

\*「参加者一覧(都道府県)」参照

\*「1日目グループ一覧」参照

# 認知症地域支援体制推進 全国合同セミナーの目的

全国の自治体が、新オレンジプランに基づく各自治体としての認知症施策を円滑に企画・運営し、地元で暮らす認知症の人が、初期から最期までよりよく暮らし続けていくことを支える地域支援体制づくりを着実・持続発展的に進めていくことを促進する。

## 合同セミナーで

国施策の  
・方向性、  
・最新情報  
を知る。

全国各地の  
取組を参考に  
施策担当者/  
関係者の役割  
ポイントを  
確認する

全国の担当者等との  
情報・意見交換を通じ  
自地域の今後の  
あり方・補強策等を  
具体的に検討する

## 自地域で

\* 情報共有  
\* 対話・討議  
方向性確認  
具体策補強  
\* 効果的取組みの  
**推進強化・加速**

ネットワーキング

# めざす姿の実現にむけて力を結集：市区町村-都道府県-国が重層的に取組を推進

本人：初期から最後まで、意思を尊重されて、地域でよりよく暮らし続ける



## 地域・支援の最前線

市 区 町 村

固有の風土・文化・社会資源を最大限に活かしながら  
持続発展的な支援体制を築く

都 道 府 県

市区町村の施策・取組みを推進・環境整備・バックアップ

国：厚労省、関係者省庁

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)、等

# 1. 認知症施策の方向性と展開

厚生労働省老健局総務課  
認知症施策推進室  
川島英紀室長補佐



## 2. 認知症地域支援体制構築に向けて

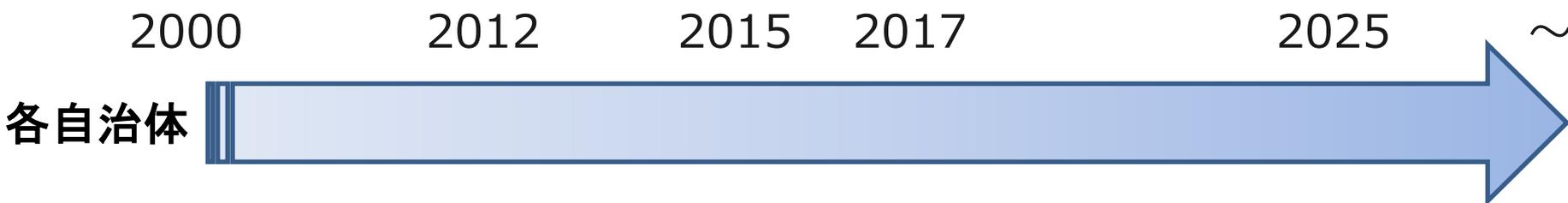
～今、やるべきこと・できることは何か～

ちょっと、ひと息・・・

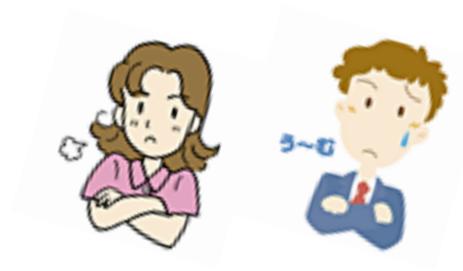


# 2017年6月

今、自分の立ち位置は・・・？



これからの自分は・・・。



## 認知症施策 . . .

これまでも、各自治体で

- \* 長年かけて、多様な認知症関連の施策に取り組んできている。
- ・ 多くのマンパワー、時間、コストをかけてきている。



そして、ここから。

\* 今年度

\* 来年度以降の計画策定

# 2017年6月



- ・やることが山積み・・・
- ・仕事は、認知症のこと以外にもたくさん！
- ・待ったなしの案件が次々に・・・

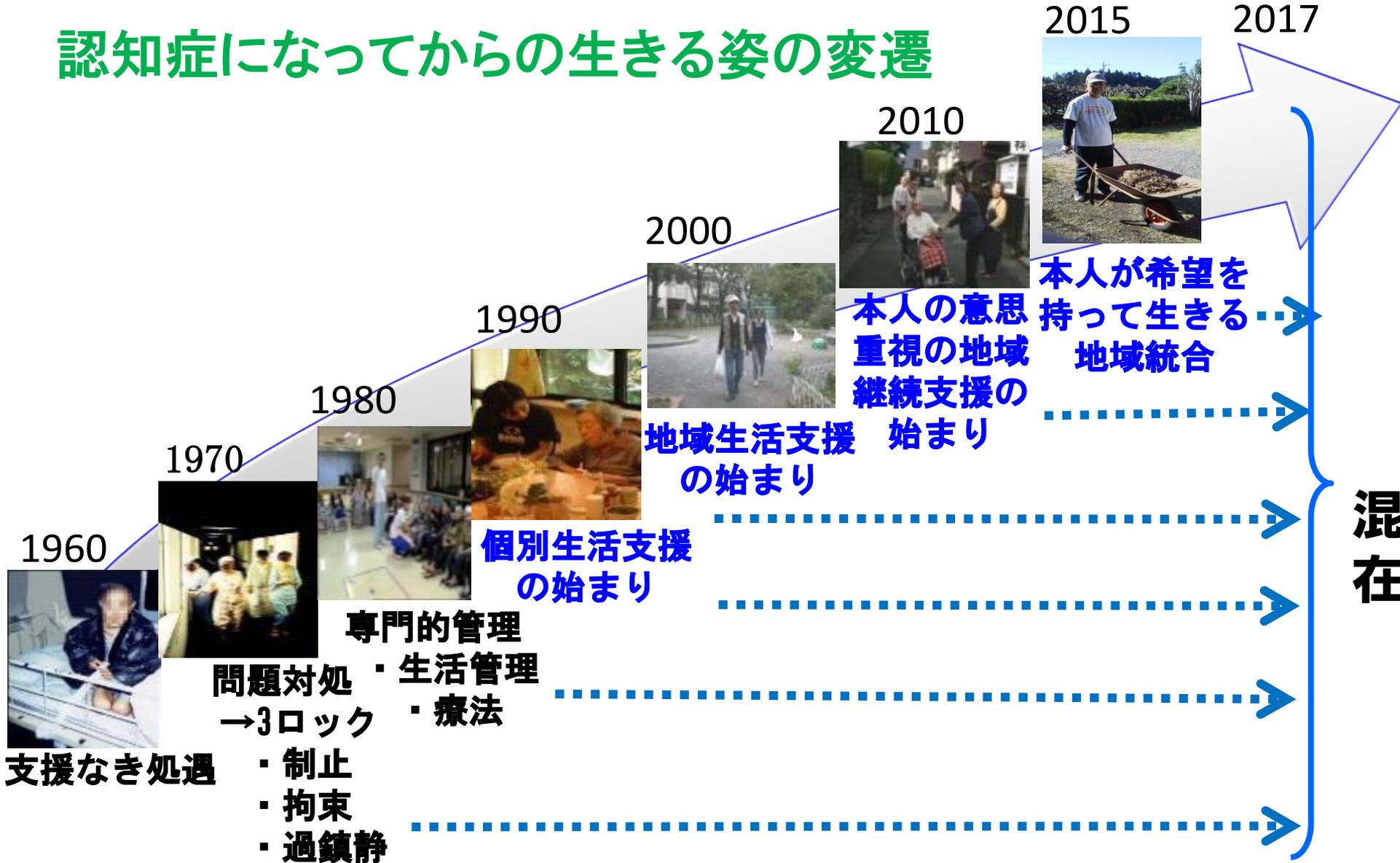


急がば回れ！ 焦らずに  
自分の地域で  
今、やるべきこと、できることを  
いっしょに話し合おう。

立場を超えて  
いっしょに

# 2017年6月：同時代に「50年分もの較差」が混在している

## 認知症になってからの生きる姿の変遷



あなたの自治体の本人の姿は？ あなた自身の将来の姿は？

# 団塊世代以降の人たちが認知症になる時代：生き方が大きく変化

「認知症になっても、わたしはわたし。」

「認知症を隠さずに、外に出て、人生を楽しもう」

「認知症を体験している自分たちが気づいたこと、願いを社会に伝え、社会を一緒によりよく変える活動を始めていこう」

認知症当事者組織：日本認知症ワーキンググループ設立(2014年10月)

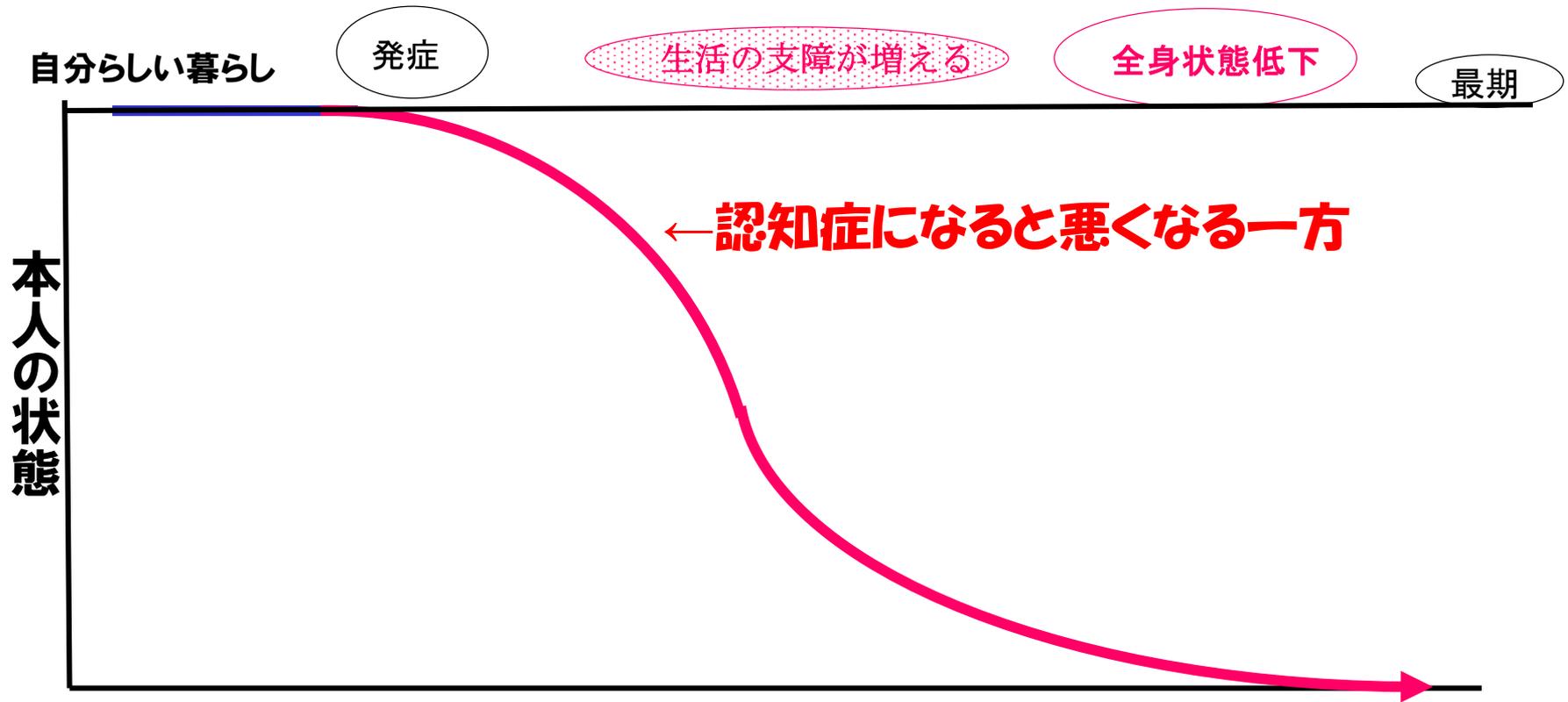
共同代表 藤田和子さん



「認知症になったら  
何も分からない」  
「何も出来ない」  
という偏見は、  
認知症と診断された人自身を  
蝕み、生きる力を奪います！

本人が声をあげるには、  
認知症による生きづらさや  
不安、偏見などさまざまな  
障壁があります。  
周囲の理解と協力が欠かせません。  
我がこととして、真剣な取組みを  
どうか一緒に。

# これまでの偏見： 認知症になると悪くなる一方 その後の人生は、真っ暗・・・



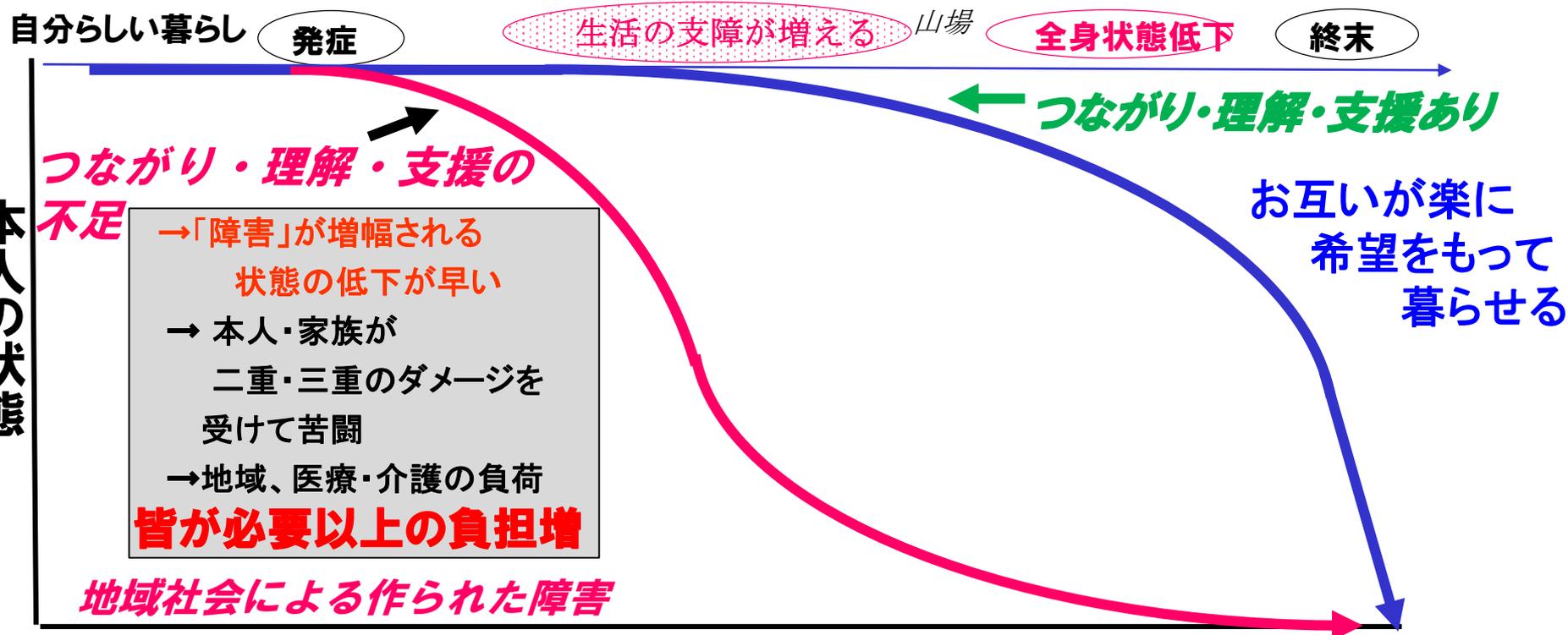
# 現在わかってきていること

地域の「つながり・理解・支援」を増やすと

＊認知症の発症や状態悪化を遅らせることが可能。

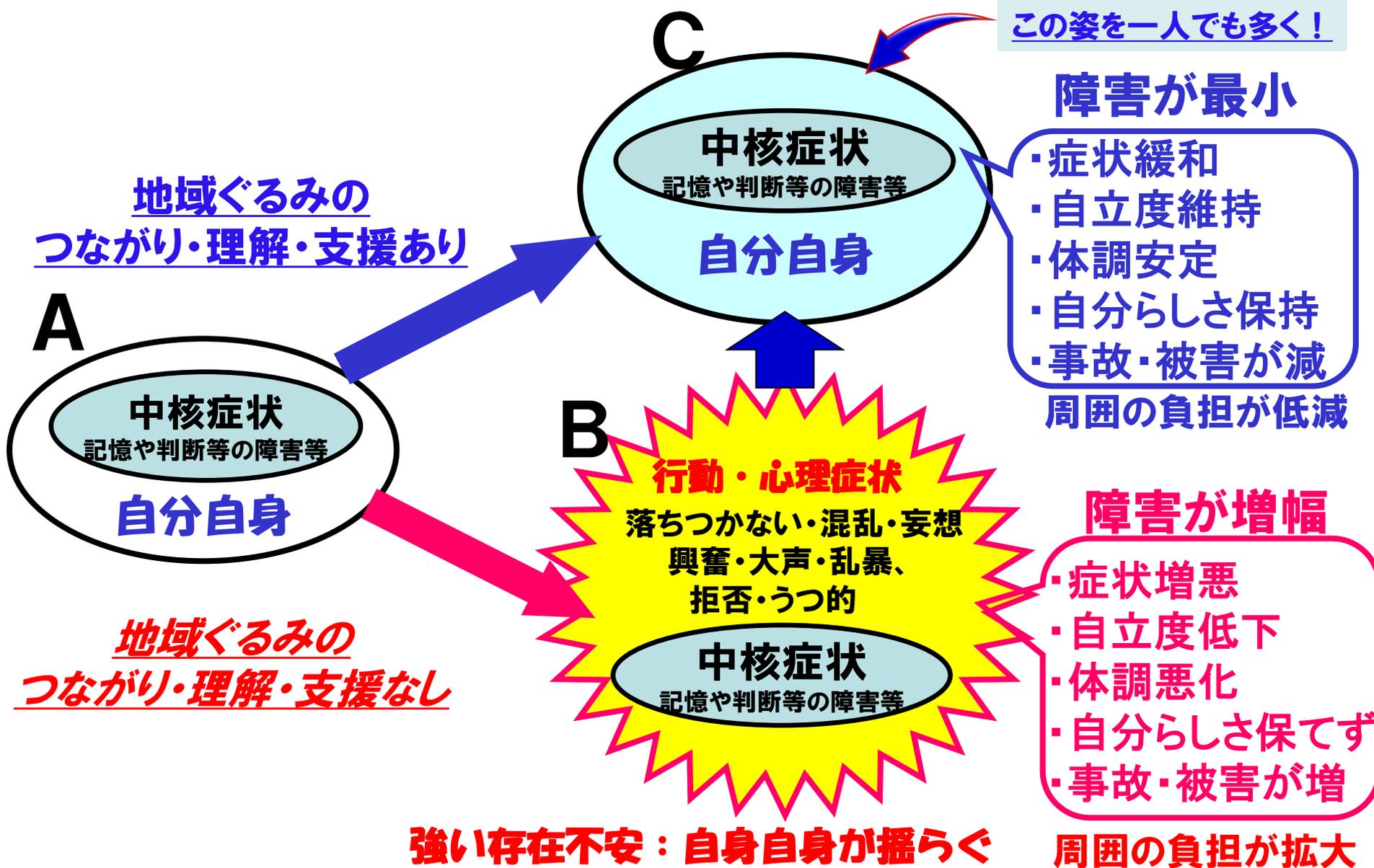
＊本人が力を発揮し、希望をもってよりよく暮らせる。

＊家族、地域の人、支援者も楽になる、前向きに暮らせる。

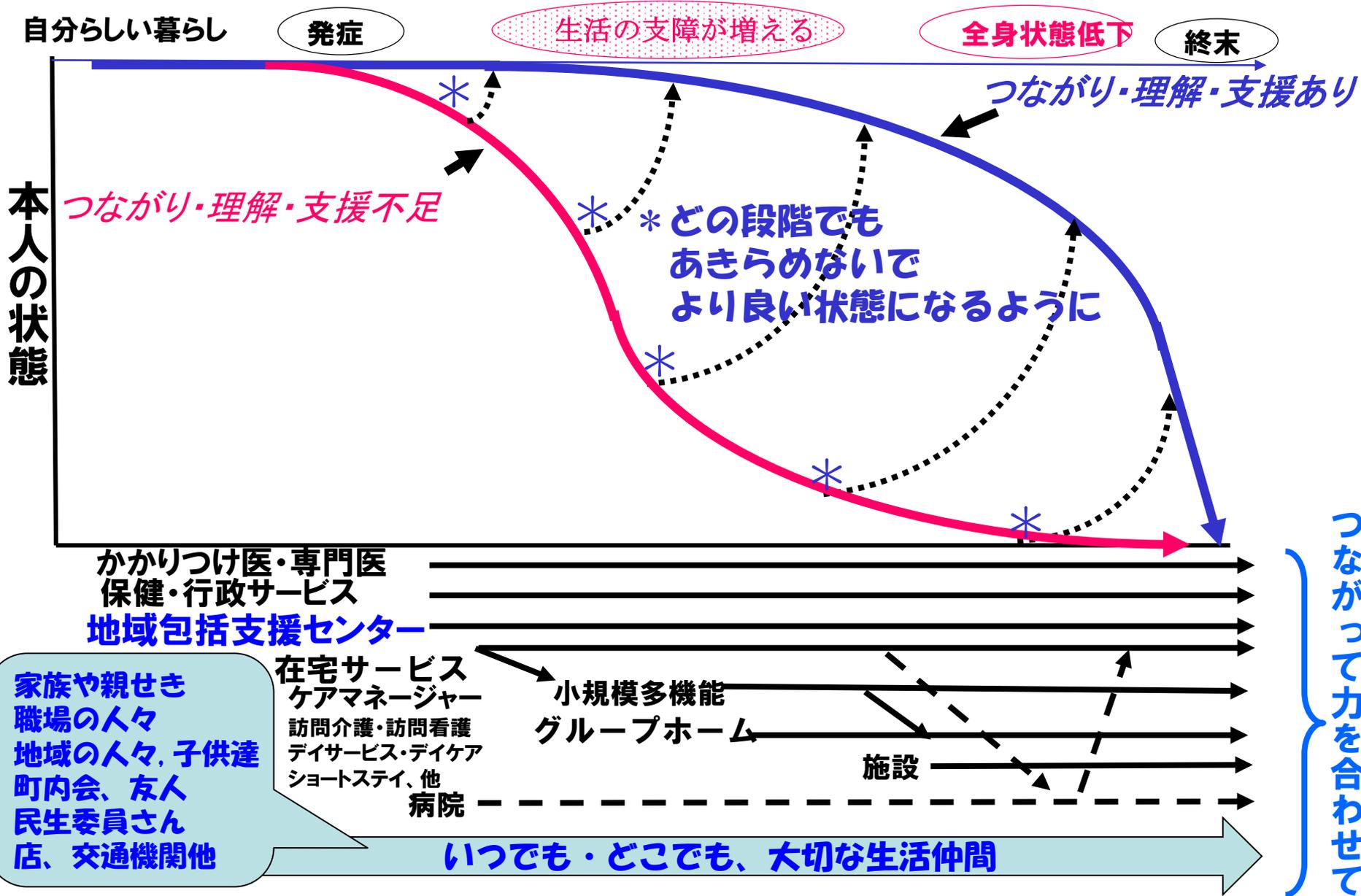


地域の「つながり・理解・支援」の有無で人生行路が大きく異なる

# 認知症：つながり・理解・支援の有無で状態に大きな違い



# 長い経過を辿る:あきらめないで、つながりあって、互いに、より良い日々を

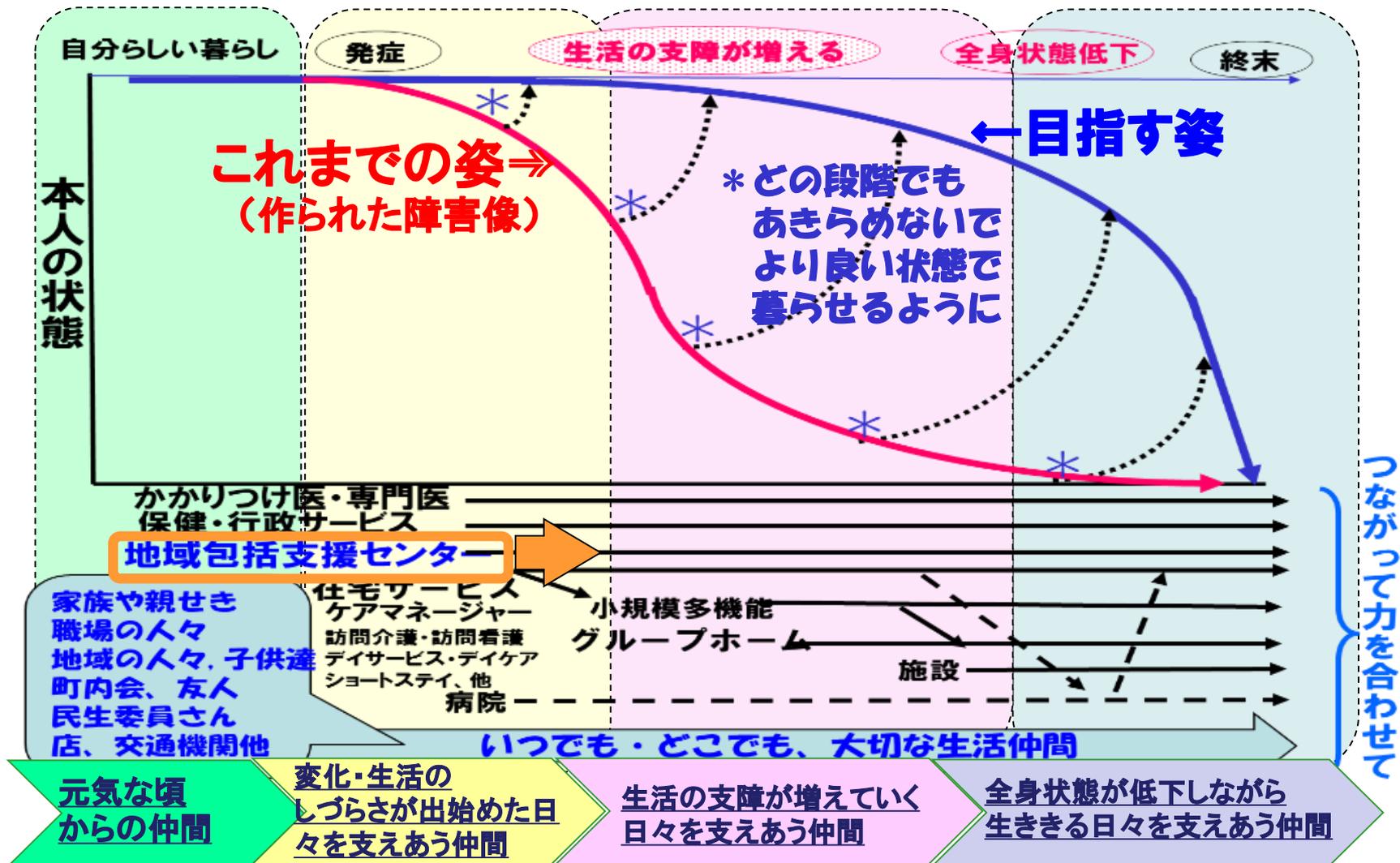


# つながり、支えあう仲間を増やしなが

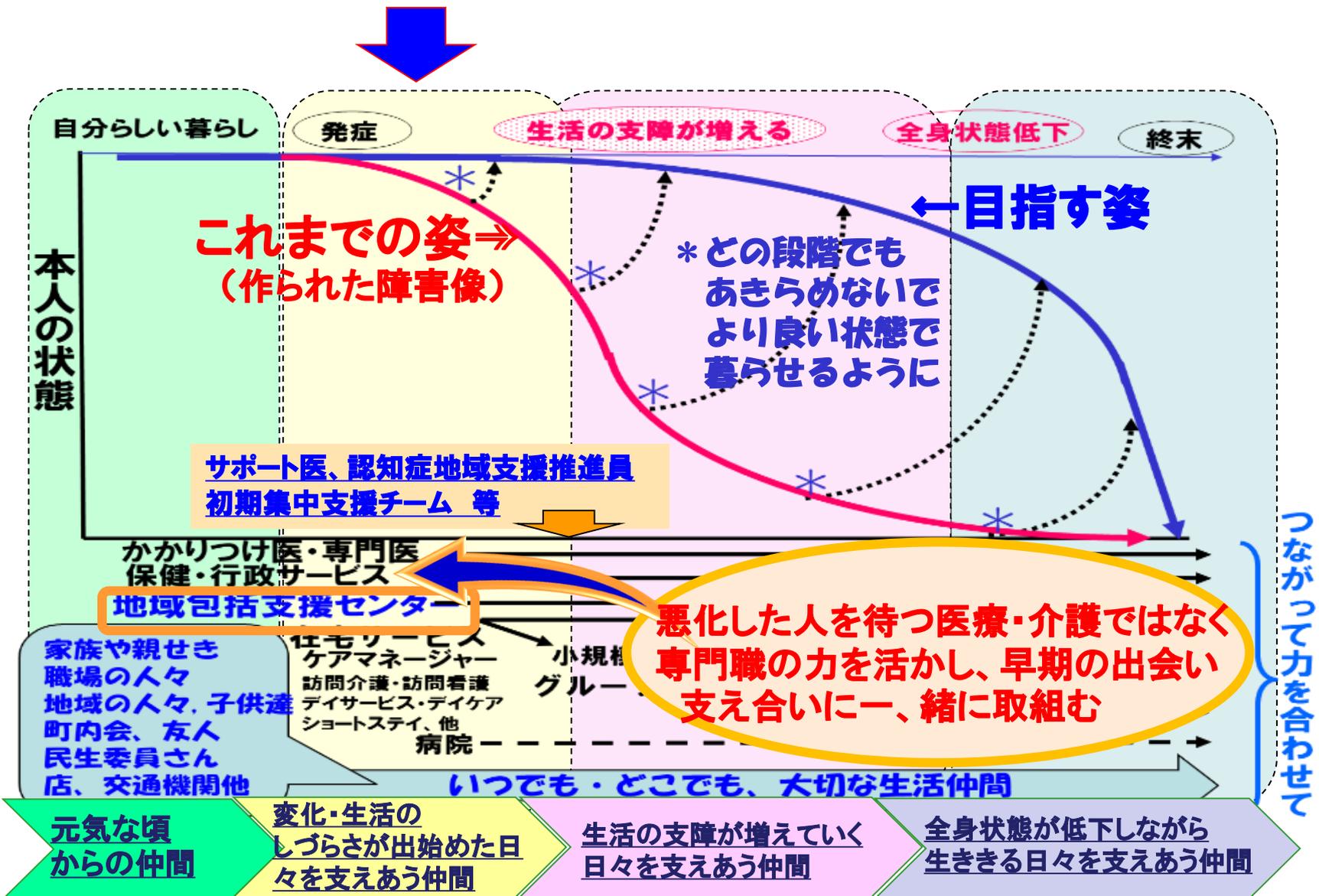
- ★元気な頃からのつながり
- ★専門職と住民のつながり

市町村行政が果たす役割が大きい！

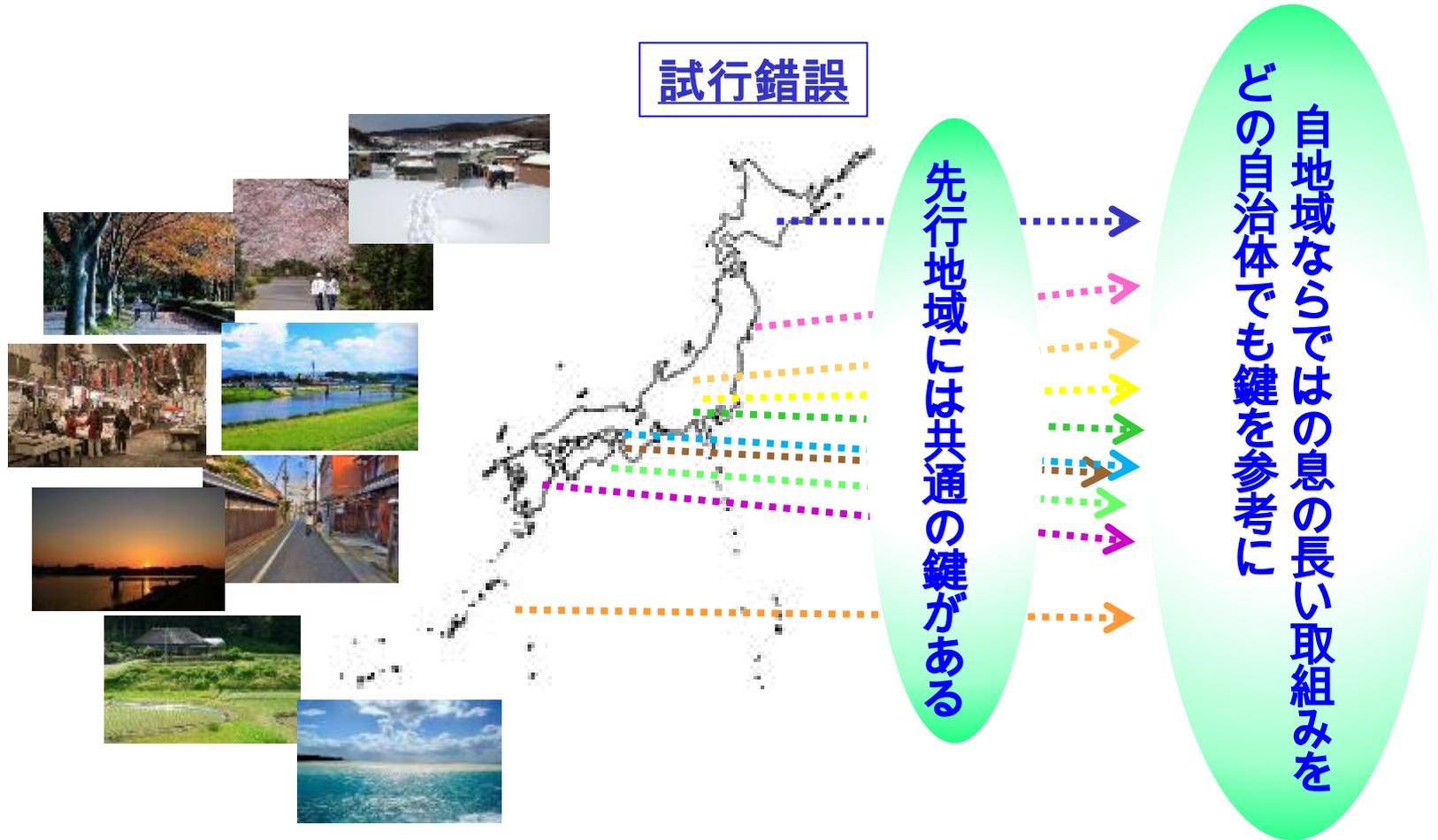
地域には、「つながり」を求めている人がたくさんいる



**従来は、後手後手の対応 \*繰り返される問題を、他人事にしていないか**  
**⇒今、特に注力すべきは初期:初期がその後の経過を大きく左右する**



# 今、全国各地からヒントを



# 鍵は何か（主な点）

1) 認知症のイメージを刷新する：絶望から希望へ

＊自分の内なる偏見を払拭し、希望の結集軸をつくる

2) 認知症の本人の声を聴き、本人と共に地域をつくる

＊やるべきこと、すぐできること、小さな目標を見つける

3) 脱領域で、多様な分野の人・事業等につながる、つなげる

＊推進チームをつくる

4) 楽しいアクションと一緒に企画し、とにかくアクション

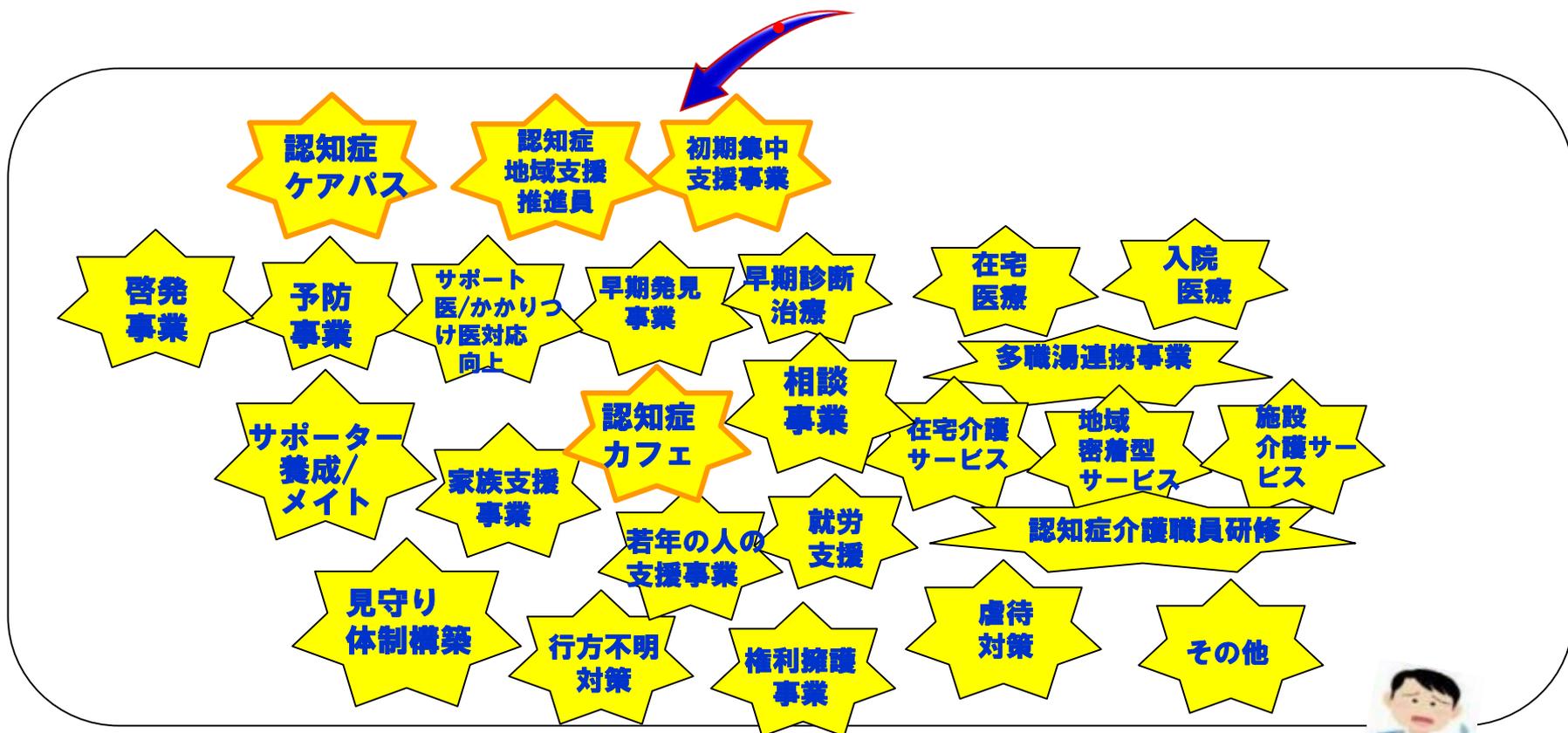
＊活きたつながりと（小さな）成功体験をつくる

5) 地域で生まれている（小さな）成果を集約し、インパクトのある発信をする

# 1) 認知症のイメージを刷新する: 絶望から希望へ

＊自分の内なる偏見を払拭し、希望の結集軸をつくる

現状：年々、認知症関連の事業やが取り組みが増えてきているが・



・バラバラ、混乱、

＊何をめざしていいかわからない、やらされ感、その場しのぎ  
忙しく頑張っているのに、成果があがらない

⇒ 地域のみんなが疲弊、先行き不安、あきらめ、絶望の悪循環



# ★認知症になっても、いい日々、いい人生が送れる！

○行政の関係者自身が、認知症への偏見、  
暗いイメージを払拭。

○いつでも、どこでも希望を真剣に語る。

→住民、医療・介護等専門職の  
「やりたい」思いにスイッチをいれる

\*みんな、何とかしたいと思っている。

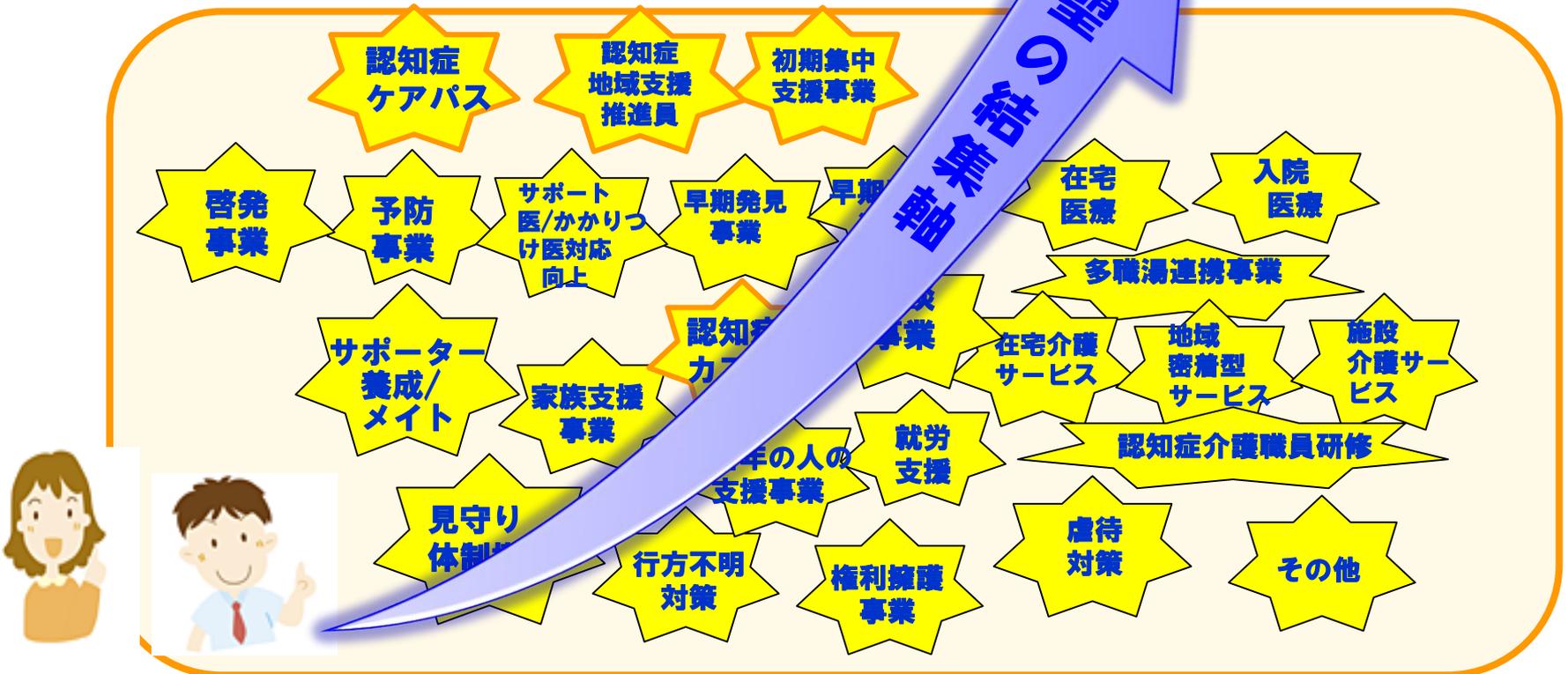
⇒連携・協働の鍵

希望

自分ごととして

本人

地域



**認知症になっても希望が持てる町を、いっしょにつくろう！**  
**行政関係者(事務職、技術職)が、**  
**あらゆる機会に、様々な人に「希望」を語っている例**



**サポーター養成講座で**



**サロンやカフェで**



**医療・介護・支援の  
関係者に向けて**



**研修会や報告会で**



**子どもたちに向けて**



**企業に向けて**



**委員会や様々な検討会、議会で**



**\*地域の多様な人たちのやる気と力が湧き出て、結集軸が生まれる**



# 国施策を地元の取組の刷新に活かそう：希望を掲げている

国：認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）

～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～

厚生労働省 平成27年1月

・ 認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、  
認知症の人が認知症とともにによりよく生きていくことが  
できるような環境整備が必要。

## 基本的考え方

認知症の人の意思が尊重され、  
できる限り住み慣れた地域のよい環境で  
自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。

・ 厚生労働省が関係府省庁と共同して策定

（内閣官房、内閣府、警察庁、金融庁、消費者庁、総務省、法務省、文部科学省、  
農林水産省、経済産業省、国土交通省）

生活を一丸となって支える

## 2)認知症の本人の声を聴き、本人と共に地域をつくる

現状：地元で暮らす本人の声をきかないまま、  
施策・事業や取組みを企画し、こなすことになりがち。

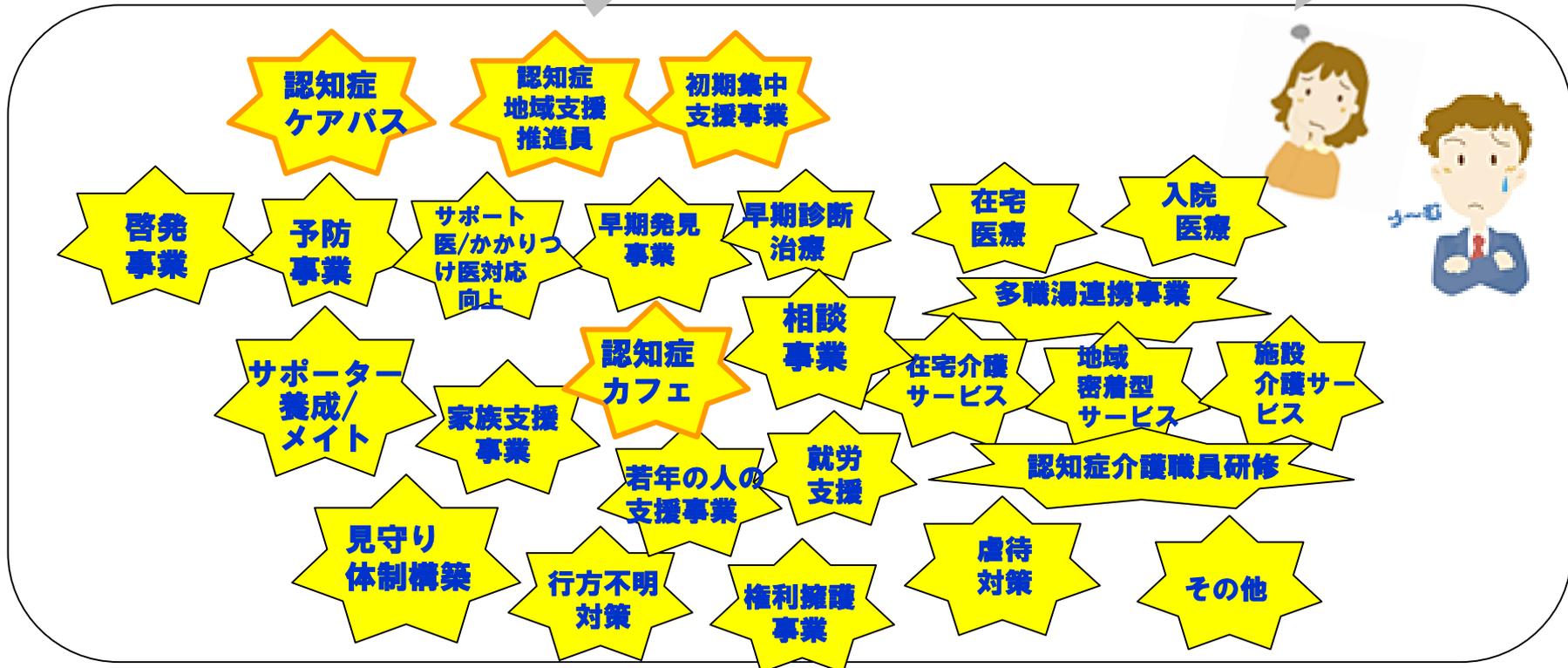


何から手をつけていいかわからない

やってははみたが  
やっておしまい  
作っておしまい

ターゲットの  
人が集まらない  
つながらない

苦勞している割に  
成果ができない、  
やりがいがない。



# 本人のことばより

- 冷たい目でみないで。
- 認知症って、ひとくりにしないで。わたしは、わたし。
- だめ、しないでいい、あぶない……、  
そればっかりいわれる。  
情けない。いやんなる。 少しでもいい、自由にさせて。
- 世話になる一方は、つらい……。  
おとうちゃん(夫)や子どもたちのためになりたい。
- 外にでたい！ 気晴らししたい！ 働きたい！

**地元の本人の声に耳を澄まそう**

**⇒やるべきこと、すぐできること、小さな目標が具体的にみつかる。**

**本人の声をもとに、ちょっと一緒に。  
小さなことが、安心とつながりの源。  
無理をせず、関わる側も楽しいひとときを。**



ちょっと、顔を見に



ちょっと、散歩に



ちょっと、ドライブに



ちょっと一緒に  
きれいになり



ちょっと一緒に  
同級会へ

本人なりにやりたいこと、願いがある

「好きなこと」をいっしょに、楽しく、心豊かな日々を。



ちょっと一緒に、  
好物の一品を



ちょっと一緒に、  
生け花を



ちょっと一緒に  
気晴らしがてら買い物に



ちょっと一緒に、  
音楽を



ちょっと一緒に、  
絵を見に



ちょっと一緒に  
会いたい人に手紙を

本人なりにやりたいこと、願いがある

「好きなこと」をいっしょに、楽しく、心豊かな日々を。

★男性編！



ちょっと一緒に将棋でも



新聞見て、しゃべろうよ



いっしょに図書館にとっても落ち着く・・・。



ちょっと一緒に、田んぼ見に



ちょっと一緒に、一風呂



仲間と飲むのが、一番！

支えられる一方ではなく、地域で働き、地域を支える一員として  
地域を舞台に活躍する姿

ちょっと見守り支えれば、まだまだできる、働ける！



地域の人の繕いもの役



忙しいお隣の草取り



町の花壇ボランティア



保育園の助っ人役



子供を守る:散歩中に  
防犯パトロール



花屋さんの常連さん  
最期まで花を買いに

生き生きした本人の姿が、地域の人達の意識を変える。勇気や希望を生み出す

いくつになっても、認知症になっても  
一人ひとは（自分は）、すごい底力を秘めている。



釣り



認知症の人とランニング  
ラン伴  
(北海道から九州まで)

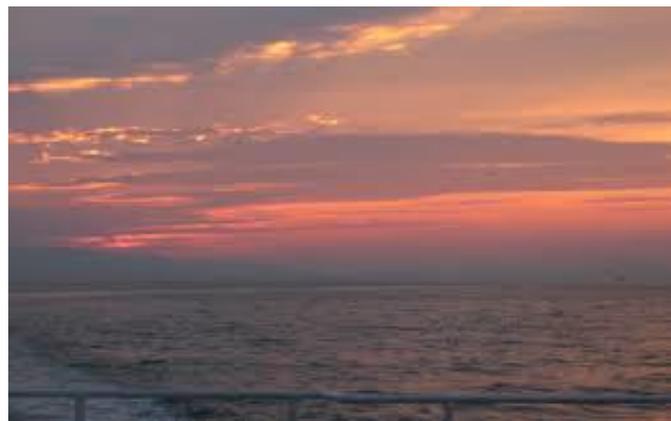


全国認知症ソフトボール大会  
(富士宮市)

体が弱った人・施設で暮らす人も。地域の中でちょっと一緒に。



ちょっと一緒に、好きなものを買いに。



ちょっと一緒に、あの風景を見にドライブを。



ちょっと一緒に、外にでて  
晴れ晴れと。

ふだんから、地元で  
本人同士が集まり、本音で語り合える機会をつくろう  
\*本人ミーティング

★家族や支援者には、語れない思いやニーズがある。

★認知症の体験をしている仲間に出会えると…

- ・本音で語れる。

  - ⇒重荷を(少し)おろせる。解放される。

- ・想像以上に、語れる。思っていることを伝えられる。

  - ⇒真のニーズがみえてくる。

- ・本人同士で、励まし合い、支え合い、

  - 落ち込みから脱出して、前向きになっていく。

★各地で、行政職員と関係者が一緒に本人ミーティングを開催

- ⇒本人たちの声から、求められていること、優先課題が何か

  - 明確に、無駄のない効率的な施策・事業展開に。

## 認知症総合戦略推進事業【一部新規】

### ⇒ 認知症の本人が集う取組みの普及【新規】

#### 参考:本人ミーティング

#### 【本人ミーティングとは】

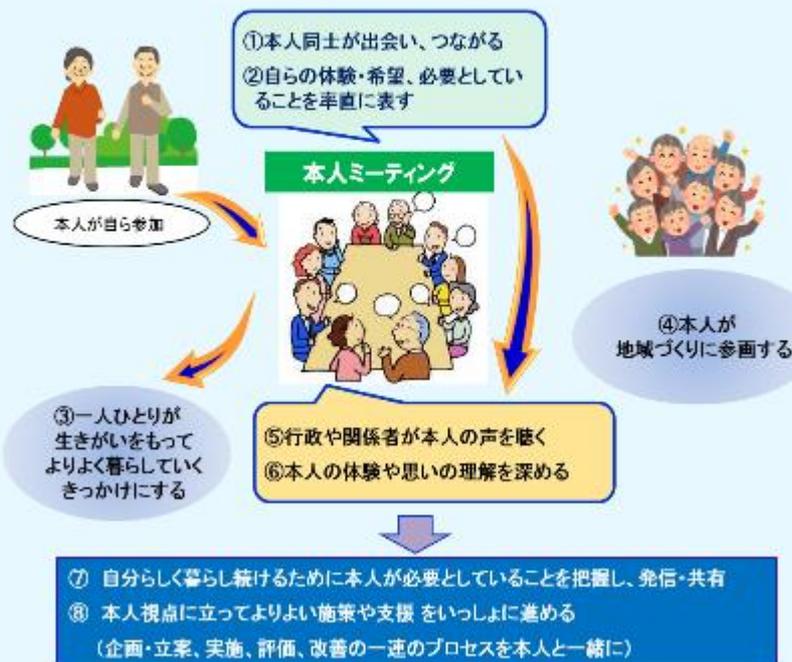
- ◆ 認知症の本人が集い、本人同士が主になって、自らの体験や希望、必要としていることを語り合い、自分たちのこれからのよりよい暮らし、よりよい地域のあり方を一緒に話し合っていく場です。
- ◆ 『集まって楽しい!』に加えて、本人だからこそその気づきや意見を本人同士で語り合い、それらを地域に伝えていきます。
- ◆ 行政や関係者が同席し、本人たちの生の声から、本人への理解を深め、地域の実情やニーズをとらえながら、やさしい地域づくりを具体的に進めていきます。

#### 【本人ミーティングの開催について】

- 地域の関係者が必要性和ねらいを共有しながら、地域の特性に応じて企画し、自由に開催できます。まずは少人数から、今ある場や機会を活かして開催します。
- 各地で、多様な職種の人たちや認知症地域支援推進員が取り組み始めています。
- 企画段階から本人が加わると、本人が集まりやすく、語りやすい本人ミーティングになります。

#### ★本人ミーティングのねらい

○本人ミーティングは、認知症の人の視点を重視したやさしい地域づくりを具体的に進めていくための方法です。



**\* 本人ミーティングが、これからの認知症施策、地域づくりの出発点。**

詳細は、「本人ミーティング開催ガイドブック」

<http://www.ilc-japan.org/study/>

# 本人ミーティングの様々な取組例

多様な場を活かして、多様な人たちが開催しています。



地域食堂で(北見市)  
主催:介護・医療の地域  
ネットワーク



駅近の交流スペースで  
(仙台市)  
主催:、地域の多職種の  
自主組織



小規模多機能事業所で  
(上田市)  
主催:介護事業所

## 本人ミーティングでの本人の声

- 同じような体験をしている人と話せてうれしかった。自分もいろいろ言えて、元気が出た。
- 自分たちが言わないと、わかってもらえない。自分たちが話すことが、まちをよくすることに役立つんだと聞いて、胸がすく思いがした。
- 仲間が欲しい。認知症の人同士で話し合える場所がもっと近くにほしい。
- 診断後すぐ、先生(医師)がこういう場につないでほしい。
- 家族がいろいろしてくれるのはありがたいが、心配しすぎ。
- できることを奪わないでほしい。失敗しても怒らないで。
- (医療や介護の人は)家族と話している。自分に話してほしい。
- 家族に頼らないで誰かがいてくれて、出かけられるように。
- 自分が自分でいられる場がほしい。
- 自分のやりたいことがいろいろある。今のデイサービスでなく、もっと自由な場があるといい。
- 自宅で暮らせなくなった時)家のように自由に暮らせて、やさしく助けてくれる人いる場所を。
- 認知症施策を作る時に、自分たちをいれたら変わるのではないかな。本人の声を行政に。
- 「私、認知症です」と言える社会に。

## 同席・同行した人の声

- 話せるか心配だったが、自分から話していた。驚いた。(家族)
- 帰り道の(本人の)足取りが軽く、とても嬉しそうで、私も嬉しくなった。(家族)
- 知らないことを楽しそうに話しておられた。もっと新鮮にきかなければ。(介護職)
- 普段と生き活き差が全然違った。他の職員にも参加してもらい一緒に変えていきたい(病棟看護師)。
- こうした場があれば、大事なこと、やるべきことが具体的にわかる!(地域包括支援センター)
- やってみたらうちの地域でもできた。自分の方が元気と勇気もらった。続けていきたい。(行政事務職)



認知症カフェで(国立市)  
主催:地域の医療機関/  
在宅療養相談室



町役場で(綾川町)  
主催:地域包括支援  
センター



介護施設交流スペース  
(大牟田市)  
主催:多職種ネット

地域ですでにある場や機会を活かして、小さくスタートしてみよう!

# 本人と共につくるまちへ



**本人が、認知症の講師役に**



**本人が認知症関連の委員会や作業部会のメンバーとして参加**  
**\*関係者の意識が大きく高まる。**  
**\*やさしく、実質的な取組みになる**

# 3) 脱領域で、多様な分野の人・事業等につながる、つなげる

町のあらゆる人が、認知症の人と家族の生活相手・見守り・支え手  
 →視野を広げる。無理と決めつけず、アプローチ。



わが町の場、自然、季節、文化、産業等

★領域を越えたつながりが、新たな解決力を生む  
 現場に出向き、ひやすらつながる、つなげる

町にあるものを活かし、小さく始めて、身近なものに

## ・参考：矢巾わんわんパトロール隊

2013年4月結成

隊員40名 わん隊員44匹



- ・日々、町を歩いている人たち  
⇒無理なく、日々の中での活動へ
- ・顔なじみの高齢者がいる  
⇒気軽な話し相手に  
⇒気がかりなこと、早めの小さな相談
- ➔ 地域包括支援センターへつないでもらう
- ・SOS時にふだんの底力を発揮  
★実際に、迷っていた人を救出！

- ★個別のケアプランに、  
ワンワンパトロールを盛り込む。  
⇒担当者会議にもでてもらう。  
普段からの見守り強化、在宅生活継続へ

参考

# 市の他の課とタックを組む：企画課と総活躍のまちづくり

(和歌山県 御坊市)

## 認知症の人が市の産業振興に貢献：総活躍に一人



町 みんなが愛着をもっているものを入口に



ていねいに刈り取り



デイサービスや施設で  
袋づめ作業をいっしょに  
楽しみながら、思いをこめて。

○スターチスが特産品

花言葉：

「変わらぬ心」「途絶えぬ記憶」

⇒認知症施策担当者/

認知症地域支援推進員

★スターチスを

認知症支援、地域支援のシンボル

合言葉にしよう！

→ JAとの協働(地場産業との連携)



スターチスグッズが  
大好評



さまざまな人に  
大切なことを  
バトンタッチ！

## 4)楽しいアクションと一緒に企画し、とにかくアクション！ \*活きたつながりと(小さな)成功体験をつくる

- ① 本人・家族、多様な地域の人、多分野の専門職が会う場をつくる  
★多様な人の「出会い」と「対話」の機会:行政だからこそやれる
- ② 立場や職種を越えて、わが町のこれからにむけて、やってみたいこと、できそうなことを伸び伸びと話しあい、とにかく動いてみる。
  - ☆専門職、行政職員も、地域の一員として
  - ★他分野で課題となっていること、必要なこと:共通点も多い。
  - ☆これからのわが町がどうあってほしいか
  - ★何ができるか、同じテーブルについて自由なアイデアを

⇒会議だけしていないで、とにかく地域に出て動く後押しを。

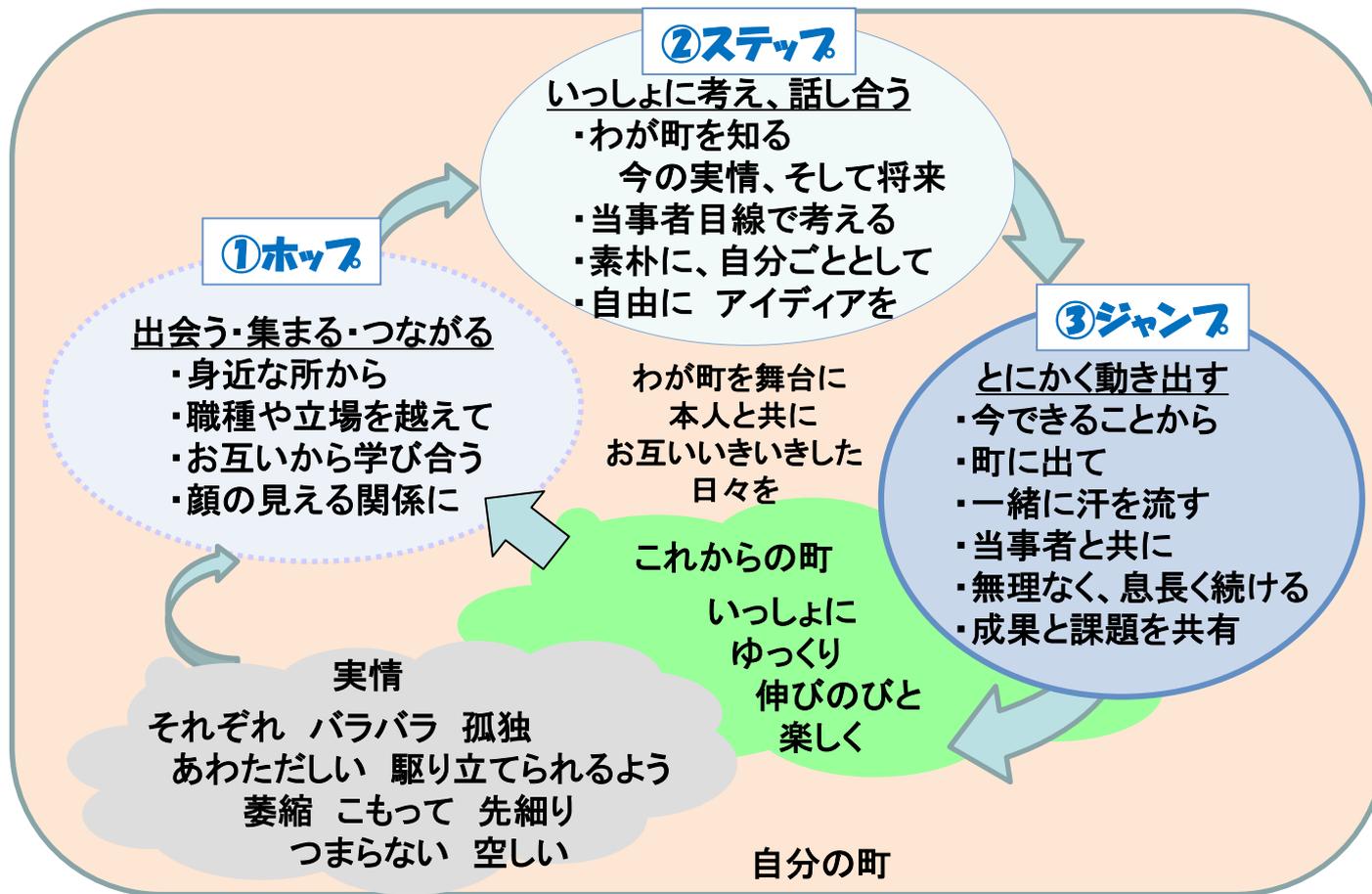
⇒動き出してみると、次にできることが浮かび上がってくる、  
新たなつながりが生まれる。

楽しく

信頼して

# 地域にいる多様な人たちが、地域の中で、出会い、つながり、一緒に楽しく活動する機会をつくろう

アクションミーティングを、一緒に開催してみよう！



研修会、検討会、**情報伝達の機会**、**報告会**の開催方法をリニューアルする  
一方通行⇒対話⇒ネットワーク⇒自由なアイデア⇒アクションと連携の連鎖へ

# アクションミーティング

「こんな町にしたい」、「こんなとをやってみたい」立場を超えた話しあい

大きな町で・・・

市内の医療・介護職員を募り、地域包括支援センター単位でチームを作り  
アクションミーティングを開催 静岡市



各自がばらばらなままたな努力を積み上げるのではなく、  
各地域の中で多職種がつながりあって、  
本人・家族に役立つ支援をしたい。  
もっと楽しく、自分たちも地域で自然体でできることを。

自発的なアイデアから自発的な活動が生まれています：認知症施策にある事業の地域版  
多職種による相談会、出前講座、出会いの場作り(カフェ)、いざという時のお助け隊等

その地域ならではのアクションと生きたつながり自主活動が着実に広がっています。

ちょっといっしょに、畑仕事がやれたらいいねえ

**小さな気づきを、行政職員が、町のあちこちでつぶやいていたら・・・**

**つながりがつながりを生んだ・・・うちの土地使っていいよ、てつだうよ**

保健師、介護職、介護家族、認知症の本人、ご近所の人、社会福祉協議会、病院看護職  
福祉課長、産業課長、土建屋さん、市長さん、マンションの人、中学生、若いママ・子供たち



**こもりがちな認知症の人、  
施設で暮らす人も、畑で大活躍中！**



**地域の様々な人たち、  
一人暮らしの人たち、障がい者、  
若い世代や子どもたち、赤ちゃんも  
いっしょに集い、支え合う場に。**



## 5)地域で生まれている(小さな)成果を集約し、インパクトのある発信をする。

\* (小さな) 成果が、地域でたくさん生まれ始めている

\* 課題、改善に向けた気づき、アイデアも生まれている

⇒出向き、声や動きを集める、見える化する

⇒地域の多様な人に発信、共有する

★埋もれていた動き、起きている変化を、具体的に地域に伝える

★見えない努力をしている人に光をあてる

⇒新たなつながり・力がうまれる。

あまりにも知られていない！知ってもらうことから！

伝わるように、わかりやすく、楽しい発信を

\* 写真や動画等の得意な人の力も借りて

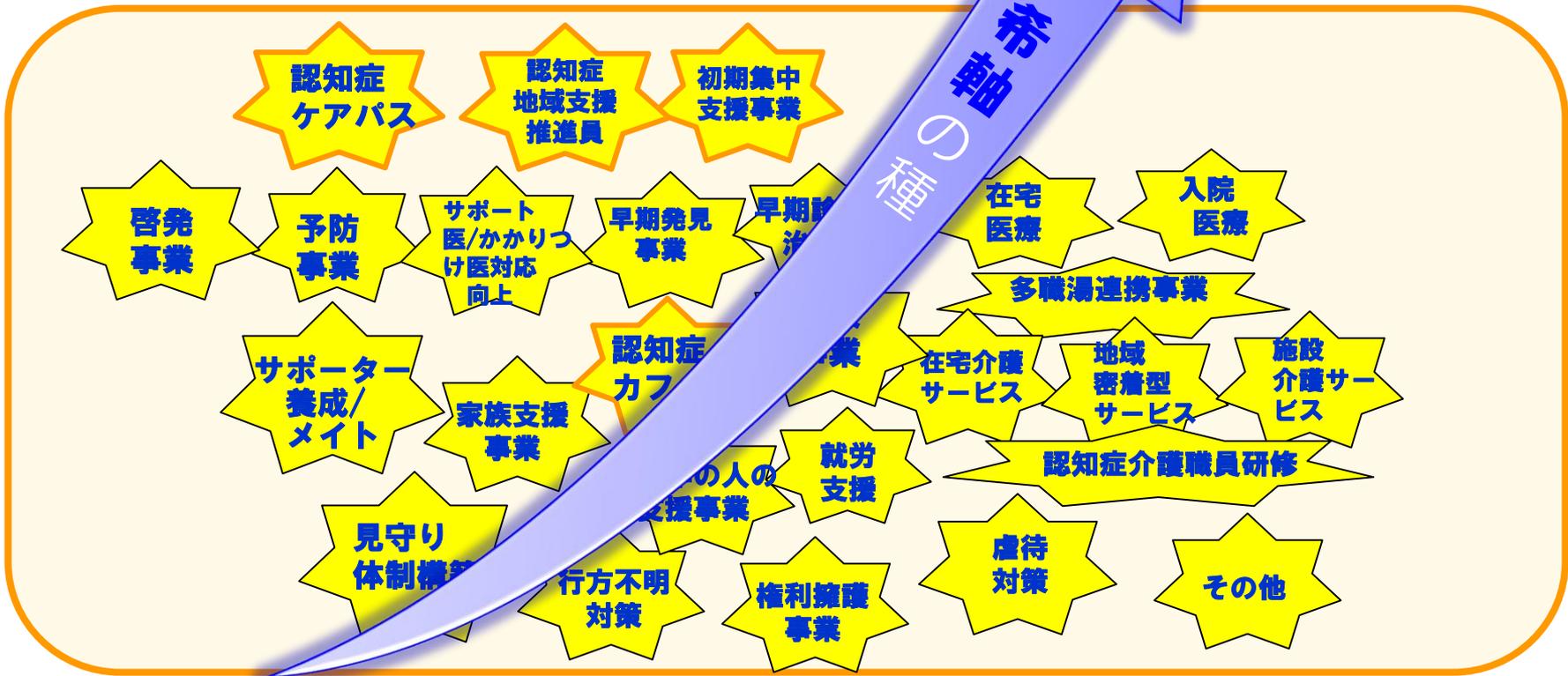
恵子さん見守る人たち：この町で元気に暮らしていける



目指す姿！

# ★希望の種が、ごく身近なところにある

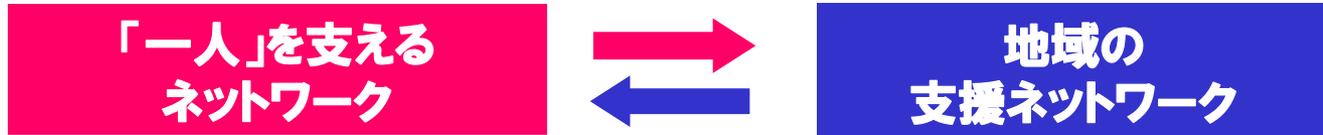
本人  
地域



# 地域を舞台に

施策・活動と一緒につくる⇒本人が地域の中で生きていく

深刻な問題の予防・解消も、地域の一人ひとりのつながりから

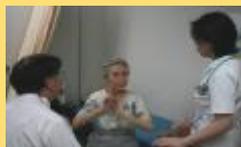


認知症になってからのよりよい暮らしを支え合う自然体のつながりが生まれる

# 希望をもって暮らせる地域に：力を結集するフォーメーション作りを

市区町村：固有の風土・文化・社会資源を最大限に活かしながら

めざす姿



認知症の人が意思を尊重され、地域のよい環境でよりよく暮らし続ける

小地域で：地域の人たちと専門職が



市町村単位で：方向性を共有した推進チームが、牽引  
息長く、あきらめず、経年的に推進し続けるチームをつくる



都道府県

市区町村の施策・取組みのナビゲーション・推進・バックアップ  
例) 市区町村のコアメンバーを集めた推進会議等の継続開催



国：厚労省、関係省庁

新オレンジプラン、関係省庁が共同

### 3. 他の自治体の取組からヒントを得よう: その1

**京都チーム** \* 地域と市区町村、都道府県が方向性と力を合わせて  
経年的に取組む

【報告1-1】 京都府丹後保健所 企画調整室 川口 秀子さん

【報告1-2】 京丹後市健康長寿福祉部長寿福祉課

京丹後市地域包括支援センター 藤村 綾さん

竹内 歩己さん

**霧島市チーム** \* 行政と事業者が企画段階から話し合いを重ね、  
互いの力を活かし合いながら地域に根差した  
施策や取組みを拡充

【報告2-1】 霧島市保健福祉部長寿・障害福祉課 池田 宏幸さん

【報告2-2】 霧島市地域密着型サービス事業者連合会

(認知症介護指導者)

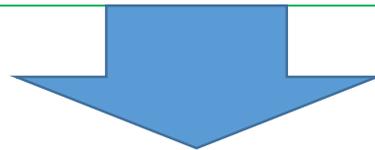
黒岩 尚文さん

○新オレンジプランを視野に入れつつ、  
わが自治体としてどういう企画を立て、何に注力しているのか

○事業を実際に展開する上で

\* 担当者の役割として、何を大事にしているか

\* 立場を活かしてやるべきこと、できることは何か



①参考にした点・気づきは…

②自地域の取組みにどう活かせるか

報告を通して、自分なりにじっくり考えてみよう。

## **4. わが地域の取組みの今とこれから**

**～報告を活かして自地域の取組みを考える～**

## 1) まずは個人ワーク

ワークシートで情報や気づきを整理してみよう

【自分の地域での取組みに関して】 シートの一番左の縦欄

①参考になったこと・気づきは・・・

A.京都の報告に関して

B.霧島市の報告に関して



②自地域の取組みにどう活かせるか

## 2) 他地域の参加者と話し合おう：グループワーク

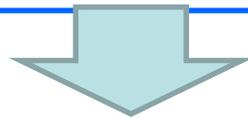
ワークシート:縦欄の2～6列目は、グループの各メンバーの情報やアイデア等をメモしよう。

\* まずは、簡単に自己紹介

地域、所属、お名前、「わがまち自慢」を一言！

\* 各グループで進行役を決めて話し合いを進めて下さい。

③ (各自が)現在の取組みの紹介と  
個人ワークで考えたことを伝え合おう



④自分の立場を活かして、やってみたいこと

◆自由にアイデアを出し合おう！

◆地元に戻ってから進む手がかりを具体的につかもう

地元を持ち帰れるように、メモしっかり残そう

グループで話し合いながら言い足りなかったことが  
きつとあると思います。

- わが地域の取組みや工夫をもっと伝えたい！
- こんなことをもっと知りたい！



ワークシート（1日目）の裏面に  
どうぞ、ご自由に、お書きください。  
\* 箇条書きで

- ◆ 皆さんの声を、明日のセミナーに反映させていただきます。
- ◆ 進行役をされた方、皆さんのワークシートを集めて、机の上に置いておいて下さいますようご協力願います。  
\* ワークシートは、明日の朝、返却いたします。

# お疲れさまでした！

- ◆明日は、別のグループ編成になります。  
\*地域が同じ/近い人同士
- ◆今日、出会い、話し合えたグループの人との  
つながりをどうか大切に。  
\*名刺交換、メールアドレスの交換等を
- ◆地元から持参された資料で、他の地域の人に  
紹介していいものがあれば、スタッフに  
どうぞお渡し下さい。

# ～ 情 報 交 換 会 ～

## ○報告地域の関係者と直接会って、話しあおう！

- ・ 具体的なことを質問しよう。
- ・ 自地域に役立てたい内容・資料等の詳しい説明をきこう。
- ・ 担当者同士ならではの、悩み、アイデアを話しあおう。

## ○参加者同士、話しあおう。つながろう！

- ・ 今日の感想、気づいた点、深めたい点
- ・ お互いの地域の紹介、具体的な情報交換
- ・ 今後もやりとりできるために  
**名刺交換、資料等の交換を**

☆顔をあわせた今日だからこそこのやりとりを！